

# 卒業生保護者からの手紙

---

117期卒業生保護者からこれから受験を控えてる保護者の方へ

**2020.11.21**

## 概要

117期の卒業生保護者の方へアンケート形式でお話を伺った結果をご紹介します。  
進学講演会でお話いただいた卒業生保護者の方のお話と同様に皆さんの今後の参考になればと思っています。

## 質問について

- ・お子さんの勉強について
- ・お子さんの成績推移はどんな感じだったのか
- ・苦手科目はあったのか、苦手科目の取り組み方法は？
- ・塾や予備校に通ったか、学校との両立はできたのか
- ・志望大学や学部はどの時点で決めたのか
- ・国公立大学の出願について
- ・これから受験を控えている保護者に対して伝えたいこと

## ・お子さんの勉強について

- ・主に自宅自室で勉強していましたが、秋頃からは、放課後、教室で友達と勉強する様になり、前期試験後も学校で勉強していました。
- ・2年生の中間試験、部活動の引退までは学校からの課題をこなすのが精一杯だったと思います。
- ・学校で言われたこと、模擬試験などを中心にやっていました。但し、親の目からすると、高2の2学期期末試験あたりから急に勉強量が増えた印象です。
- ・周りが受験モードに入ったら急に受験モードに入った。特にその時期に「受験勉強しろ」とは言っていません。急に受験生モードになった印象です。
- ・部活の先輩から参考書をもらったりもしていたような気がします。
- ・受験勉強全般において、落ちたらどうしようということではなく、受かるためには何をすべきかということ、常に考えていたようです。



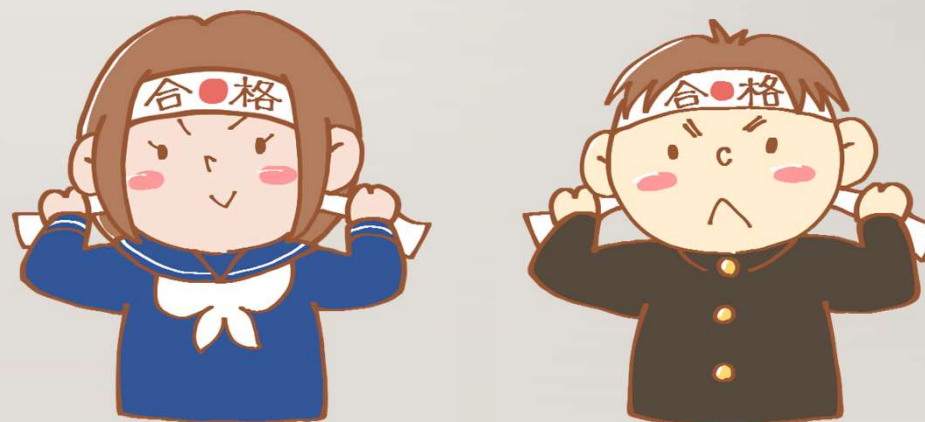
## ・お子さんの成績推移はどんな感じだったのか

- ・高1の物理、両国生活最初で最後の赤点でした。点数の取れる生物化学での受験を考えた様でしたが、最終的には、興味があり、受験学部が広く選べる物理を受験科目に選び、それから一生懸命勉強して半年～1年後には上位の成績になりました。
- ・元々、総合（トータル）では全体の平均より少し上あたりかなと認識しています。うちの場合は好き嫌いも手伝い、極端に得意と苦手が分かれていました。実際、理科はどの科目も学年トップクラスでしたが、苦手の英語はその逆で下から何番目、というレベルでした。3年の受験が迫った時期あたりからかなり（勿論それでも模試結果は浮き沈みもありましたが）数学、国語、社会も成績を伸ばしたという認識です。実際、センター試験では国語社会も予想以上に得点源になりました。その後も2次試験まで数学は伸びていたと思います。



## ・苦手科目はあったのか、苦手科目の取り組み方法は？

- ・得意科目の勉強時間を削って、苦手科目に取り組んでいました。友達に勧められた問題集を購入して勉強していた様です。
- ・苦手は英語、これは両国の6年間、貫き通しました。決して両国の授業が悪いわけではなく、どうしても単語を覚えるなど、コツコツと積み上げる学習を怠っていたのが一番の原因だと思います。これに加え、他の両国生たちが英語が出来過ぎる、その波に乗れず「苦手意識」を持ってしまったという所でしょう。



## ・塾や予備校に通ったか、学校との両立はできたのか

- ・塾には通いませんでした。が、模試は頻繁に受けていました。〇〇大オープン等も。
- ・高2の12月に「東進ハイスクール亀戸校」（←通学路途中にあります）の無料体験に参加し、これが本人にハマったようで、最後までお世話になりました。基本的に科目、コース別に購入する形なので、英語中心でしたが、3年も最後の方は模試や数Ⅲも利用しました。まず苦手意識があったので気分的にもリセットできたと思っています。本人に聞いたところ英語の「高速マスター基礎力養成講座」というやつで単語を覚えたのが一番だと。授業はオンデマンドタイプでスクールに行ってもiPadなどで自宅でもできるので、自分の空いた時間ででき、本人次第ですが比較的両立はしやすいと思います。
- ・2年の冬に駿台の講習に行きました。あとになってから言われたのは、退屈な講習だったけど、行きたいって言っていかせてもらったから出席はしたということでした。  
3年生の時は、学校の夏の講習をやたらと取っていました。秋口くらいから志望校別の単発の講習の案内が予備校からぼちぼち来ていたので、いくつか参加しました。そのせいか、受験の前日に予備校のチューターさんから激励の電話がありました。  
講習に申し込むと予備校の自習室が使えるのですが、高校の方が広々と使えるし、席取りもないし、なんといっても高校ではエネルギー補給のおやつが配られるので、予備校の自習室は全く使いませんでした。予備校へは、自分のやり方を確認することを目的として通っていたようです。



## ・文理選択や志望大学や学部はどの時点で決めたのか — 1

- ・保育園の卒園式、小学校の1/2成人式、卒業式などで将来は「大工」「ものづくり」をやると宣言していたので、親は漠然と都内の工学部、理工学部という認識でしたが、高1の三者面談時の調査票で初めて第一志望が北海道大学水産学部、第二志望が東京海洋大学という事を見せられた時は「青天の霹靂」でした。「自分は生物学、特に生態的なものを突き詰めたい」「フィールドワークで学びたい」という本人の希望は高2からはっきりしてきたようです。どうせ北大なら総合で入って、その後どんな研究などをしているかをしっかり見てから再度学部学科を決められる制度（※1）を利用した方が良いのではないかという私の助言で第一志望が2年の半ばでほぼ決まりました。

※1：但し1年時の成績順なので必ずしも希望通りにはならない

- ・第一志望校を最終的に決めたのは高2から高3になる春休みでした。
- ・文理選択については特に相談されていません。本人に任せていました。



・文理選択や志望大学や学部はどの時点で決めたのか — 2

- ・結果的には完全に子どもに任せた形になってしまいました。資格を持っていた方が、便利だよ～とか、文系の仕事には理系でも就こうと思えば就けるけど、理系の仕事には文系からは就けないよ～などと囁いてみましたが、耳には残らなかった様です。何がきっかけになったかわからないうちに、学部も学科も決めていました。
- ・1年生の面談の時には地方の大学が第一希望でした。2年生の自分の生活態度を見て、地方に行ったら留年すると思っただけで、自宅から通えるところが変わっていました。具体的には3年のクラス分けをするあたりで決めていたようです。





## ・国公立大学の出願について

- うちの場合は前期試験が「北大総合理系生物学重点」、後期試験は「北大理学部生物学科」出願で、難易度的には後期の方がやや高めです。  
但し、前期試験は北大の場合 英語、数学、理科2科目なのに対し、後期試験志望学科は理科2科目のみの為、ある程度大丈夫かなという希望的観測はありました。勿論、定員からすれば狭き門の為、親も本人も腹はくくりました。根底にあったのは永谷先生の「第一志望に行かせる指導」という進学講演会でよく聞くフレーズです。
- 前期は第一志望校、後期出願は、希望者のみセンター試験後に担任の先生と三者面談をして決定しました。前期よりは若干レベルは落としましたが、センター配点と二次試験科目や配点等、本人は色々調べていた様です。後期出願の際も入れそうな学校ではなく、入りたい学校を選んだので、前期と後期の差はあまりなかったと思います。
- 前期に本命で中期・後期はレベルを下げました。



・これから受験を控えている保護者に対して伝えたいこと (1)

まずは健康管理に気を付けました。バランスの取れた食生活を心がけ、インフルエンザ予防に加湿器を購入、お風呂に入ってYoutubeを観る事が息抜きになっていた様でしたのでこまめにお風呂掃除をしたり…  
受験期は子ども本人が一番大変な思いをしたのは勿論ですが、我が家の場合、入試期間中に私の母の入院や夫の感染性の胃腸炎等も重なり、子供を無事に受験させる為、大変でした。サポートする保護者も体力気力が必要だと痛感しました。  
また、入試期間終盤コロナの影響で思わぬ展開になったこともあり、私は子供の気持ちを支えきれずに涙する事があり、抱えきれない思いを一足先に進路が決まっていた同級生の親御さんや余裕のある親御さんに聞いて頂き支えて頂きました。進路指導の先生にも相談したり、切羽詰まって取り乱して学年主任の先生に電話してしまったり…。  
我が家の場合、先生方は勿論、保護者にも助けて頂きました。チーム両国は保護者同士にもありました。同級生の親御さんの中には、既に上のお子様で受験を経験されている先輩保護者が大勢いらっしゃるかと思います。周りを見回して、相談出来そうな方を探してみて色々聞いてみるのもありだと思います。



・これから受験を控えている保護者に対して伝えたいこと（2）

自分の受験のころとはかなりシステムが違い、あの頃の経験はあまり役立ちません。特に私立大学は受験チャンスは複数化しながらも複雑で、しっかり整理（受験のみならず入学金の払い込みなど）しておかないとあとで大変です。子供を受験勉強に集中させるために親はこのあたりのサポートが一番の仕事になると思います。

子供たちは本当に最後の土壇場まで力を伸ばします。子供を信じましょう。



・これから受験を控えている保護者に対して伝えたいこと (3)

入学式の時の先生からのメッセージにあった、日々の食事と奨学金を使わないで通学できる環境を用意することを基本にして、見守るしかないのかなと思います。志望校を決めた後の受験に関する情報は学校から説明があるので、子どもが分かっているはずですが、手続きについては、3者面談で表になったものがいただけるので、それに従って、忘れないように振り込んだり郵送したりしました。(この作業が一番ドキドキしました)

私の中では、両国高校に入学できたというところで、進路については本人に任せようと思っていました。なぜなら、先輩や同級生からいい刺激をもらえる高校だと思ったからです。子どもの様子がどうしても気になるという方は、卒業を祝う会幹事や後援会活動をしたりすると、いい気分転換かつ情報収集の場所になると思います。そして、どこの学校にもいいところと悪いところがある、受かったところに縁がある、合格はあくまでも通過点だと思うようにしていました。また、私自身、出産直後に当時の上司から「あなたが産んだ子なんだから、期待しすぎるんじゃないわよ」と言われ、その時はなんてことを〜と思ったのですが、特に高校生になってからは、この言葉が結構かなり心の支えになりました。自分が高校生の頃を思えば、こんなこともあんなことも、そうよね〜と思えたものです。





合格を目指  
して頑張りま  
しょう！

東京都立両国高等学校・附属中学校

後援会 進学講演会委員会